

# 砂原かつのり

すなはら 総務委員会 地方創生・行財政対策特別委員会

広島市西区横川町1-5-7  
[TEL]082-292-8328 [FAX]082-292-8379  
http://sunahara-k.com/ E-mail:sunahara@ms11.megaegg.ne.jp

〒730-8509 広島市中区基町10-52 広島県議会「広志会」控室  
[TEL]082-513-4620 [FAX]082-223-0185  
広志会ホームページ http://koshikai.jp

広志会 議員	会長 城戸常太〔呉市〕 建設委員会 少子化・次世代育成対策特別委員会	宮本新八〔山県郡〕 農林水産委員会 平和推進・地域魅力向上対策特別委員会	井原 修〔東広島市〕 警察・商工労働委員会 産業競争力強化対策特別委員会	佐藤 一直〔広島市中区〕 文教委員会 社会基盤整備対策特別委員会
-----------	--	--	--	--



**住んでみたい、暮らしてみたい広島県に  
看板倒れを危惧する県施策**

人口減少、少子高齢化、グローバル化などの変化が進む中、本県の目指す将来像として6つの柱を策定し、「ひろしま未来チャレンジビジョン」の取り組みを始めようとしています。主な重点施策は

- (1) 新たな経済成長 人づくり
- (2) 安心な暮らしづくり
- (3) 豊かな地域づくり
- (4) 災害に強いまちづくり
- (5) 広島県の価値の共鳴・共振
- (6) 広島の価値の共鳴・共振

です。確かにどれも大切な施策で、いい感じのキャッチフレーズに包まれています。

ところが現実には具体的な施策も示されず、そのアクションプランさえ、いまだに出来ていないのです。取り敢えず骨組みのジャンルを創り、県民を巻き込もうとする姿勢には納得できません。

**具体的取り組みが課題**

広志会が強く意見するのは、施策には具体的に実現性あるプランとプロセスを示すべきであり、格好いい言葉やイメージ先行で中身の薄い取り組み



左から宮本・井原・城戸会長・佐藤・砂原の各県議

は将来への危ない一歩になると信じるからです。

納得できる内容を求めます。

**県民は確実に減少している**

中面に特集した「広島県の人口減少」への対策は喫緊の課題ですが、本県に移住を考えている方の不安は、「一定の収入が確保できるか」「移住の費用や移住後の生活費は」という点が他県より大きいようです。アンケート／ひろぎん経済研究所

これからの私たちの生活形態は徐々に様式を変えていきます。例えばロボットによる暮らし補助の進化、時と場所を選ばない仕事環境の進化など、社会環境は大きく変化を続けていくことでしょう。

そして、ますます仕事の減少、人口集中等で、過疎化の進行と就労場所の減少を生むので、今、手を打たないと確実に手遅れになります。

県は手をこまねくだけでなく、並行して新たな産業の創出を企画し、存続のための営業戦略と販売戦術を地域と共に考え動く姿勢が不可欠であると私たちは考えます。

**着実な取り組みと提案を**

人口減少対策は、夢と希望を感じさせる手法だけでなく、今後の社会環境の変化を取り込んだ実効性の高いプランを構築し、県全体で臨んでいく必要があります。定住人口増加の可否は、広島県政の成績表として県民に公開すべきとも思います。

広志会は「住んでみたい、暮らしてみたい広島県に」をテーマに掲げ、介護、年金の課題や、数ある県の債務負担案件等にも、県民に納得のいく説明を求めていきます。



平成29年定例会で、会派代表質問をしました。質問を作るに当たり、過去の広島県知事や広島市長のビジョンを調べてみました。その中には明確なビジョンを掲げて、施策を組み立て予算付けしておられる首長がいらっしゃいました。

現在の広島県には「ひろしま未来チャレンジビジョン」があるのですが、目指すべき方向が明確でないのと、そのビジョンを実現するための施策や予算付けができていないと感じています。そこで、具体的な事例を挙げて、1つずつ課題と目指すべき方向性について質問していきましました。

質問は、

- 1 広島都心部の再開発について
- 2 国際平和都市としてのまちづくりについて
- 3 広島西飛行場跡地の活用について

その他3項目で計6つの構成としました。

まず初めに、広島都心部の再開発。県庁から広島そごう、メルパルクや旧市民球場跡地、商工会議所までの紙屋町北側の再開発について質問しました。



広島バスセンター

この再開発については、本年3月に県と広島市が共同で「ひろしま都心活性化プラン」を策定しましたが、被爆百周年に当たる平成57年を完成の目途としているのは、あまりにも遅いと指摘をしました。

そして、鉄道網が整備されていない広島県では、バス依存度が高く、その拠点となるバスセンターを中心として、「人」と「車」の流れをどうするかが重要な問題です。しかし、このプランでは、バスセンターをどの位置に据えるのか、地下なのか平面なのか、現状と同じにするか等、バスセンターの在り方について全く触れていませんので、どう考えているのか質問しました。

また、県庁敷地はこのプランから除外されており、紙屋町一体で考えるべきではないかと質問しました。私としては、県庁敷地の容積率を緩和して高度利用を図り、耐震化対策が必要な県庁舎を新築するとともに、残地を民間に売却すれば庁舎建設費にも寄与し、地域の再開発にも広がり出てくると考えていたのです。

第2は、旧市民球場跡地に2千人規模のコンベンションホールを持つ施設を建設してはどうかと質問しました。

国連機関のユニタールは、ジュネーブ、ニューヨークそして広島市にしかありません。国連ユニタールを核として他の国連・国際機関を誘致し、この施設を世界の「平和・復興」の拠点としてどうか、つまり、広島市を全世界から人々が集まる「平和・復興」の聖地としてどうかと提言しました。

第3の広島西飛行場跡地利用計画については、対岸の商工センターにおける巨大商業施設のオープンを見越し、西飛行場跡地利用計画と相まって、ヘリポート北交差点を中心として東西と南北に大渋滞するおそれがあるので、道路改良をすべきではないかと問いたたしました。



広島西飛行場跡地

また、この西飛行場跡地の再開発については、広島市における位置づけが明確でなく、長期展望が無い、場当たりのなスポット計画ではないかと私は言いたかったのです。

これらのように、将来を見越した計画がないまま、事業化を進めていった場合、後々になつて、例えば交通アクセスなどの問題が出てきて、事業が行き詰まり、失敗につながるのではないかと危惧しています。

答弁は私の意図が通じていないのか、面はゆいものばかりでしたが、これからも機会あるごとに縷々提言してゆこうと思います。皆様のご意見をお待ちしております。